

令和4年度 第1回 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年8月25日（木） 10時00分～12時00分
- 2 場 所 横浜市役所18階みなと5会議室
- 3 出席者 中島 秀男 委員長、古本 悦子 委員、八ッ橋 治郎 委員、米本 良子 委員
- 4 欠席者 富岡 幸一郎 委員
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開 3 議題：令和3年度業務評価
議事・委員意見等	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 委員数5名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「議題：令和3年度業務評価」の審議については公開とした。 3 議題：令和3年度業務評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 評価関係資料について <ol style="list-style-type: none"> ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、令和3年度の文化事業、施設運営、維持管理及び収支決算などについて、実績及び自己評価についての説明があった。 ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。 (2) 指定管理者へのヒアリング 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ア 「Ⅰ文化事業（1）」及び「Ⅱ文化事業（2）」について <ol style="list-style-type: none"> (ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者） <ul style="list-style-type: none"> ・他施設や学校等と他施設連携事業を行っているが、横浜市芸術文化振興財団の指定管理者施設との連携はあるか。また今後予定はあるか。

⇒ 令和3年度はみなとみらいホールとの連携事業を実施した。令和4年度は横浜美術館との連携事業を予定、令和5年度は、大佛次郎没後50年記念事業で財団内外の施設と連携を予定している。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・大佛次郎について後世に伝えていくために大変重要な活動である、旧大佛邸の調査及び記録保存活動を高く評価する。
- ・コロナ禍で開催された企画展で観覧者数の目標を上回った点。
- ・SNSの活用等が行われたことによって施設の撮影利用が増えた点。
- ・他施設や地元企業と連携事業に取り組んでいる。
- ・企画展に合わせて謎解きイベントを行い、幅広い層の来館を促した。
- ・資料のデータ化を進め、デジタルコンテンツ作成等に活用している点。
- ・施設内で販売している商品の新規開発を行うなど、指定管理料のみに依存しない収入を得るための取組を行っている。
- ・年3回のテーマ展示の内容が幅広い層の方の興味・関心を引くものとなっており、大佛次郎や施設の認知度を向上させるうえで効果的であった点。

【更なる取組を期待する点】

- ・旧大佛邸の調査及び記録保存資料や、新規に受贈した旧蔵品をこれからの企画展等に生かしてほしい。また、引き続き大佛次郎を後世に伝えるために受贈品の整理、活用、保存調査を適切に行ってほしい。
- ・テレビ番組等で施設が露出する際に、SNSでの発信を行うなど効果的に施設をPRしてほしい。
- ・参加型や体験型のイベントが増えることにより、幅広い層の方が来館することを期待する。
- ・所蔵品のデジタル化やデータ化が継続して進められることを期待する。
- ・市民の施設利用価値を高めるために、利用者層に合わせた情報を発信することが必要となる。利用者層ごとに施設の魅力が伝わるような発信方法を丁寧に検討してほしい。

イ 「Ⅲ 施設運営」及び「Ⅳ 維持管理」、「Ⅴ 収支」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者）

- ・備品購入費が予算に対し増額しているが内訳は何か。

⇒予算作成時には計上できなかったが、検温器などコロナ対策にかかる備品費である。

- ・自主事業費が予算に対し増額しているが内訳は何か。

⇒助成金を獲得したことによる増額である。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・ねこの日に合わせ新しいネコグッズを発売し、SNSで話題作りを行い、収入に寄与する取組を進めている。
- ・計画以上の補助金を獲得し、テーマ展の企画内容等を充実させた点。
- ・来館者の視点を想定し展示場所や、展示方法を工夫した点。

	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃が行き届き、施設の維持管理が適切にされている点。 ・コロナ禍で制限があるなかで、収入額目標を達成した。 ・来館者アンケート収集を実施し、継続的に情報収集を行っている。 ・室内装飾を適時行っており、施設のイメージアップにつながっている点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き補助金等の獲得に取り組んでほしい。 ・築40年以上の建物であるため日常点検等の施設・設備管理を丁寧に行い、市と情報を共有し適切な対応をすることを期待する。 ・職員の在宅勤務を実施する際に、個人情報の漏えい等に十分に注意してほしい。 ・文学館として、出版物に対する負担金の支出は今後の価値創出につながるため継続することを期待する。 <p>ウ 「その他」及び「総括」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金獲得し企画展の充実を図った点や、他施設や企業との連携事業を積極的に行うなど活動の幅を広げた1年となった。 ・文学だけに限らず様々な分野にアンテナを張り、多くの方に大佛次郎を知っていただくための取組の幅を広げてほしい。 ・施設職員の方々が大佛次郎及び記念館の魅力を幅広い年代の方に伝えていこうという意欲を感じる。継続して取り組んでいただきたい。 ・企画展のテーマや関連イベントの内容等について工夫を凝らし、新しい切り口で表現していることを評価している。新たな視点を持つことは難しいと思うが継続して取り組んでいただきたい。 ・大佛次郎記念館は文学館の性質を持った博物館であり、著作者、著作資料を中心にしながら市民に文化的な価値を提供する施設である。令和5年度に博物館法の改正があり、デジタルアーカイブの整備や、文化や観光の振興に向けた活動を地域と連携して行い、地域活力向上を目指す事業に取り組むことが必要となる。これらについて、本施設はすでに取り組みを進めているが、文化や観光振興を進めるという視点と、文学館としての視点の両軸のバランスを取りながら事業に取り組んでいただきたい。 ・他文化施設との連携を事業活動の軸とし、その活動の中から新しいテーマを発見し、さらに良い価値を生む事業を展開してほしい。 <p>4 まとめ</p> <p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを見直し、事務局で調整のうえ、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p>
審議結果	<p>「議題：令和3年度業務評価」について、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p> <p>また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>